

対日関係 中国で政治問題に

中嶋 教授が講演

熊日情報懇

熊日情報文化懇話会の四月例会は東京外大の中嶋嶺雄教授を講師に迎え、熊本・城北会場で二十一日午後零時半から熊本市のホテルキャッスルに、会員百六十人を集めて開かれた。

中嶋氏は「中国の変動と日中関係」と題し講演、「日中問題は今や中国の政治問題になりつつある」と述べた。要旨次の通り。

中国問題では情報量は多いが、プラント問題など経済摩擦が生じている。なぜか。それは情報を判断し、政策を立案するプロセスに問題があるからだ。中国はふとこころが深く、根本がつかみにくい。例を挙げると、人民日報は一つの村に一部が普通で、国民は情報独占者に不満を持っている。この新聞は政治に左右される宣伝メディアであることも知っておく必要がある。また、一般国民は県外に出るにも許可証がある。陝西省のある村で調べたら、北京に行った人は一人、首都西安に行った人は二人だった。つまり、中国社会は閉鎖的で、動きも少ない。こういうことがほとんど知られないまま、日本では中国が語られている。

さて、中国はどちらの方向に向かっているのか。ここ数年間は鄧小平体制で動くだろう。四つの近代化」を実現するため、鄧は完全な非毛沢東化を進めたいだろう。が、これはできない。鄧は大衆には人気があっても、党中央の評判は良くない。軍も鄧についてい

ない状況が出てきている。近代化のためいろいろやったが、うまくいっていない。経済基礎ができていないのに、日本の進んだシステムを持つてきても無理だ。鄧は自分の足をすくわれるのを避けようと、日中関係に携わった人や政敵華国鋒を、日中プラントに絡ませ追いつけさせている。文革を論理で否定しても、現実に残っている。中共党員の六割は文革時の入党者で、鄧が掃荡するには根強い抵抗がある。

日中関係だが、これは中国の政治問題になりつつある。ソ連と近い陳雲や薄一波は、鄧とけん制し合いながら日中関係をやっていく。日中プラントの取りやめは、非合法の秘密会(党中央工作会議)で決まった。決定は政府でな

く党でやっている。中国も今は世界戦略の立場上、ソ連と対立しているが、国際政治は変わりやすい。ホスト鄧の中国は、ソ連との関係改善に向かおうと思つた。なお、八代会場は同日午後五時から八代市平安閣で開かれた。



熊日情報文化懇話会例会の熊本会場(円内は中嶋教授)

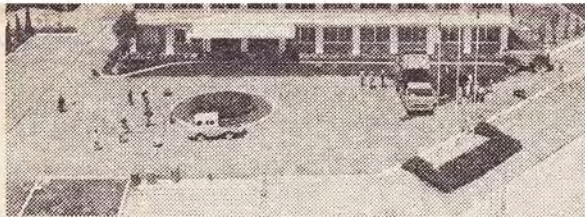
違法行為に厳正措置

熊日情報文化懇話会 熊日情報文化懇話会 熊日情報文化懇話会

熊日情報文化懇話会は二十一日、外村県教育長名の談話を発表し、二十三日、二十四日に予定されている日教組のストライキ中止を求めた。

熊日情報文化懇話会は二十一日、外村県教育長名の談話を発表し、二十三日、二十四日に予定されている日教組のストライキ中止を求めた。

行われた場合は、厳正な措置をとる」と述べている。県下では公務員共闘の統一闘争の一環として日教組(津島幸生委員長)が二十三日、二十四日に始業時から三十分、高教組(鈴木正道委員長)が各一時間のストライキを予定している。



西日本一の規模を誇る県消防学校